

第4期摂津市地域福祉計画パブリックコメントの結果

【意見とそれに対する市としての考え方】

ページ、項目	提出された意見	市としての考え方
P52 社会的孤立や貧困をつくらないまちづくり	就職氷河期世代（30代後半から40代後半）の内、ひきこもっている人・家庭の支援を加えること	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもりの支援に関しては「社会的孤立をつくらないまちづくり」の中に包含されており、「8050問題」同様、「就職氷河期世代」のひきこもり問題についても支援の必要があると考えております。 ■ご意見をうけ「就職氷河期世代」を本文中に加えました。
	母子家庭の貧困家庭支援、こどもの貧困支援をわかりやすく	<ul style="list-style-type: none"> 貧困支援に関しまして、母子家庭やこどもについての支援は「ひとり親世帯など」の中に包含されており、地域福祉計画では貧困支援に関しての大きな視点や方向性を示させていただいております。具体的な取り組みや施策は下位計画となる各分野の計画に記載しております。
	現在、CSWは正職での採用ではないようですが、じっくりと腰をすえて、その地域の課題、その地域の人々の実態をつかむ仕事にするためには、正職員として採用すべきだと強く思っています。人が動かすのが仕事ですから。	<ul style="list-style-type: none"> 現在、CSWは社会福祉協議会に配置され、正職1名、非常勤職員2名の体制で活動しております。P47からの「CSWの活動」にも記載のとおり、今後、増加が予想される相談に適切に対応していくため、更なる配置についても検討を進めてまいります。

【計画や地域福祉についてのご意見やご感想】

立派につくられているかに見える地域福祉計画が、本当にその力を発揮し、地域を動かせる計画になるためには、中核となって動く人が必要だと思います。その役割を担ってくれる役割がコミュニティソーシャルワーカーにあると思います。CSWの役割こそ、地域福祉を本気で動かすキイになりうると思います。
「公的機関と地域が連携し、従来より柔軟な支援体制を検討する必要がある」、そのとおりですね。
現在、CSWは正職での採用ではないようですが、じっくりと腰をすえて、その地域の課題、その地域の人々の実態をつかむ仕事にするためには、正職員として採用すべきだと強く思っています。人が動かすのが仕事ですから。
制度はいろいろ準備されていることは“市民ハンドブック（平成26年作成）”や“高齢者のための福祉サービス”で私はわかっていることは多いのですが、高齢で身体的や経済的に困っている苦しくなっている人がそこへつながるチャンスは何か、すべて制度は申請が必要です。自分でそれが出来る人ばかりではない。援助者が必要です。それはすべて民生委員さんになるのでしょうか。おせっかいな人が今時少ないです。そのことが一番気になります。
歩行は普通に出来る人でも市内各所から市役所へ行くのは困難です。セッピーのバスは千里丘1～7（千里丘東）桜町、鶴野などほかのバスの便もない所では不便です。烏飼もバスの便も不便と聞いております。これは高齢にかかわらず、あるいは福祉の範疇でないとされるかもしれないですがいつも気がかりな問題です。